

「とこい洋治」
後援会報

笑顔大好き

EGAO

DAISUKI

2000.10.22
VOL.4
とこい洋治後援会
〒319-0204 西茨城郡岩間町大字土師1280-17
(ヤマダイハウジングモデルホーム内)
TEL&FAX
0299 (37) 6888

茨城県議会議員

とこい洋治 県政報告NEWS

地元西茨城郡、夢のある21世紀へ

友部町、岩間町、岩瀬町



▲地元西茨城郡の皆様一人ひとりの声を代弁する思いで、本会議壇上に立つ常井県議

一般質問で緊迫感のある論戦を展開

—— 県民の目線で、21世紀の県政のあり方を質す ——

常井洋治県議は、皆様から13,630票という大きなご支援をいただき、トップ当選して以来、その期待に報いるべく精いっぱい県議会活動を続けております。今回、去る9月8日、第3回定例会において2回目の一般質問を行い、21世紀の県政の基本として、人づくり、産業づくり、安心な環境づくりを重要な視点として掲げたうえで、県政全般、地元西茨城郡の諸課題について知事等に対して、論戦をいどみ、解決策を迫りました。「常井県議の質問は、緊迫感があって、良かった。知事との質問論戦は、こうあるべきだ。」と、先輩議員や傍聴者の皆さんから、高い評価と激励をいただきました。

常井県議は、今後とも「とにかくまじめにコツコツと」地元西茨城郡と県政発展のために活動を続けてまいります。全力投球を続ける常井県議に、皆様の応援をお願いします。



一緒に創ろう!

平成12年第3回定例県議会

とこい洋治一般質問要旨

友部町、岩間町、岩瀬町

ふるさと西茨城郡の新時代

平成12年第3回茨城県議会定例会は、9月5日から22日までの18日間開かれました。一般会計補正予算は、公共事業費59億円を含めて196億58百万円を計上し、その他の予算、条例、人事議案など併せて21議案を議決しました。ここに、今定例会での常井洋治県議の一般質問の内容を紹介します。

臨界事故と今後の原子力安全対策について

1年前の9月30日のJCOの臨界事故は、2人の死亡者、436人の被ばく者を出し、風評被害による県民生活への大打撃を及ぼした。一人の県民として、当時の憤りと虚しさを忘れることなく、「県民の命と健康を守る」県政の実現を強く求めたかった。原子力事故は、東海村など地元だけでなく、事故の規模によっては、30km圏内の西茨城郡はもとより茨城県全域に被害が及ぶ可能性がある。

今後とも大きな関心を持って、取り組んでいきたいと考えている。
(常井洋治談)

今回の質問では、①原子力安全対策を進めていくうえでの基本的な考え方②原子力防災訓練の進め方③原子力に関する情報提供と原子力教育の充実④JCO事故による住民の健康被害対策と補償対策⑤JCO事故に対する刑事責任の立件見込みと原子力施設の警備対策等⑥JCO臨界事故の風化防止対策⑦新たなエネルギー対策への茨城県からの発信の7項目について質しましたが、その一部を要約して記載します。

常井県議…日本の原子力史上、最悪の事故となったJCO臨界事故から1年になろうとしている。これからの県における原子力安全対策は、単に国のエネルギー政策の観点から論じるのではなく、県民の側に足場を置いて県民の命を絶対に守るという視点で構築していくべきで、他の如何なる施策よりも安全対策を最優先させるべきだ。

今後の原子力安全に対する県としての役割への認識と原子力安全対策の推進方策について伺いたい。また、県民の生命と健康を守る視点を明確にするためにも、改定中の長期総合計画の巻頭に位置づけるくらいの姿勢が必要と考えるが。

橋本知事…依然県の役割は大きいと考えており、原子力施設の安全管理や従業員への教育訓練の実施状況等をこれまで以上にきめ細かく確認してまいりたいと考えている。また、改定中の長期総合計画での位置づけについては、「原子力安全体制の確立」を独立した新たな項として、重要な位置づけにする方向で検討している。

常井県議…原子力安全対策を進めていくうえでは、効果的な防災訓練を速やかに実施すべきと考えるが、県はどの程度の事故の規模を想定し、どのような体制でいつ頃実施予定なのか伺いたい。

橋本知事…県では、原子力防災対策検討委員会を設置し、原子力災害対策計画の見直しを進めており、この中で住民参加の原子力防災訓練も検討しているが、事故の想定をはじめ、学校の参加、いわゆる災害弱者の避難、実施時期等については、これから詰めていくところと聞いている。

常井県議…これからは県民に対し、平素から原子力についてわかりやすく説明し、事故発生時における対応を明確にして

情報提供を徹底していくことが大事だ。また、子供たちにも原子力教育を実施し啓発に努めることが重要と考えるが。

橋本知事…情報提供については、「原子力防災情報ネットワークシステム」を構築して、市町村防災行政無線やホームページ、テレビ・ラジオ等を通じて住民に分かりやすく、迅速に行ってまいりたい。原子力教育については、今年度県内の小学4年生以上の児童、中・高校生を対象とした「原子力副読本」を作成する予定である。

常井県議…臨界事故を風化させないためにも、9月30日を「第二県民の日」に定め、県民みんなで原子力安全対策を考えていくのも一案だと思うが、事故の風化防止対策についての取り組みは。

橋本知事…毎年9月30日に風化防止のための事業を継続して実施したいと考えており、今年度は原子力防災講演会やシンポジウムを開催する予定である。また、原子力安全協定締結全事業所を対象に抜き打ちでの通報連絡訓練を実施する。さらに、「JCO臨界事故の記録」を刊行する予定である。

地方分権推進プランの策定について

常井県議…地方分権時代における行政は、「漕ぐ行政から舵取りの行政」へと転換し、自らサービスを供給する漕ぐ役目から舵を取る統治（government）の役割に重点を移行していくべきだ。そして、地域社会を構成する住民や家族、学校、企業、ボランティア等各種団体、NPOなどとの役割分担を行い、本当に行政が取り組むべき役割に集中していくべきである。そのためには、自治体経営の大指針となる地方分権推進プランを策定すべきと考えるが、プラン策定に対する認識と、分権時代に向けて県職員の意識改革に対する具体的方策を伺いたい。

橋本知事…本年2月に改定した行財政改革大綱には、分権時代における行政運営のあり方も大きな柱として含まれているので、この大綱そのものが本県の基本的な運営指針であると認識している。また、県職員の意識改革については、分権時代における職員のあり方を示し、更なる意識改革を進めてまいりたい。

21世紀に向けた農業振興策について

常井県議…本県の農業・農村が活気に満ち夢の持てる産業としていくためには、後継者の育成や農村環境の改善など魅力ある農村の実現が肝要だ。また、ITを活用した流通・販売の展開など農業経営の新たな芽を大事に育てていくことも重要である。

県では、新しい農業振興計画を策定中であるが、策定に当たっての基本的な考えと、21世紀の農業を担う若者にとって本県農業を夢の持てる産業としていくための育成方策について伺いたい。

農林水産部長…新農業振興計画での新たな視点として、農村女性、農作業を支援する組織等の多様な担い手の育成、環境と調和した農業の推進と「安全で高品質」な農産物の生産等を盛り込んでおり、これらを総合的に推進することによって農業・農村を発展させたいと考えている。

産業としての農業の実現のためには、認定農業者等に対する経営規模の拡大の推進、周年出荷のための施設化や高収益が期待できる農業の確立が不可欠である。また、ITを駆使した生産や販売、PRを積極的に推進するとともに、「茨城県農業情報ネットワークシステム」の充実を図り、農業経営に役立つ情報を積極的に提供したい。さらに、家庭の構築・結婚問題も重要な課題であるので、農業を営む若者と都市の若者との農作業体験等を通じた交流にも力を入れていきたいと考えている。

整備の進む道路体系、21世紀へ夢がふくらむ西茨城郡の暮らし

—とこい洋治は、「道路こそ一番の福祉ですよ」という住民の声を背に整備推進に取り組んでいます。—

- 12年12月 北関東自動車道友部I.Cまで開通予定
- 18年度頃 百里民間飛行場開港見込み
岩間I.C～百里飛行場アクセス道路完成見込み(県中央部横断道路として期待。所要時間30分)
- 10年代後半 北関東岩瀬I.C(仮称)まで開通見込み
北関東全線も開通見込み(常陸那珂港～群馬県高崎市150km) **北陸地方も日帰り圏に!**



北関東自動車道岩瀬IC予定地付近

●筑西幹線道路

概略ルートを選定に着手、早期実現へ(岩瀬I.C～古河市(R4号)を40分で結ぶ)

(2)北関東と岩瀬I.C関連道路の整備見通し

★益子、学園都市とのアクセス機能向上を

★筑西幹線道路早期実現へ

常井県議…友部I.Cから岩瀬I.Cまでの開通に向けた事業の進捗と見通しを伺いたい。また、高崎市までの全線開通の見込みのスケジュールを伺いたい。

岩瀬I.Cからつくば研究学園都市方面、益子方面、古河など県西方面とのアクセス道路整備により、岩瀬が交通拠点としての機能が一段と発揮される。つくば益子線、東山田岩瀬線の整備見通しは、どうなっているか。

また、これからは、岩瀬が古河市など県西地域との一体化も図るうえで、重要な役割を果たす「筑西幹線道路」の整備が必要だが、その整備見通しを伺いたい。

土木部長…北関東は、友部I.C～岩瀬I.Cの8月末の用地取得率は、約30%となっている。この区間の開通見込みは、平成10年代後半と見ており、全線開通も概ね同時期と見込んでいる。

県道つくば益子線は、国道50号から久原地区の現道に至る1.9kmの区間で、バイパス整備のための路線測量を進めている。今年度は、詳細設計を実施する予定である。

県西や学園都市方面からの主要なアクセス道路である、東山田岩瀬線は、50号から大和村の区間は既に整備が完了し、真壁町、明野町区間の整備を進めている。

筑西幹線道路は、県の長期総合計画にも位置づけられており、現在、具体化に向けた概略ルートの選定作業を実施している。今後は、早期にルートの確定を行い、早期実現を図ってまいりたい。

(3)百里飛行場民間共用化に向けた岩間I.Cからのアクセス道路の整備見通し

★常井県議提唱の「県中央部横断道路」が一部実現

常井県議…百里飛行場は、本年7月に民間共用飛行場として指定がなされ、18年度前後の開港を旨として順調に進んでいる。県内の年間80万人の利用者や、北関東の全線開通による他県からの利用客が期待されるが、開港までにアクセス道路を整備して、百里の利便性を県内外にアピールする必要がある。私は、常磐道岩間I.Cからのルートが一番有効だと考えている。また、この道路は、私が提唱してきた県央部の横断道路としても、地域住民の期待は大きい。見通しを伺いたい。

土木部長…岩間I.Cから6号国道を横断し、涸沼南広域農道を経て、百里へ至るルートをアクセス道路として計画している。岩間I.Cから美野里町中野谷の6号国道までの延長6.7kmの区間は、道路を新設することとし、今年度から路線測量と詳細設計を実施してまいりたい。百里空港までの所要時間は、約30分程度と想定している。

西茨城郡を中心とした道路網の整備について

(1)友部駅周辺の県道網の整備

★友部駅前通り県道13年度に改良着手、福祉の町の玄関口にふさわしく

★道路網の再編整備、県と町が協議調整の場を設置

常井県議…友部駅前通り(県道平友部停車場線)の歩道等のひどい現況は、福祉の町の玄関口としてふさわしくない。「人にやさしい道路」として改良して、ハード面からも「福祉の町友部」の再構築を進めるべきだ。

駅前通り交差点(常陽銀行前)は、両路線で1日約13,000台の車の交通量になっている。朝夕や、雨の日は、渋滞がひどく住民生活や町の将来発展に大きな支障を及ぼしている。

そのため、特急が停車して便利な町であるが、渋滞のために特急に乗り遅れてしまう心配もでてきている。

友部町は、町内外からの車が駅前周辺を通行する道路体系なので、将来の町づくりのために、県と町が一体となって、県道・町道のあり方を総合的に協議調整する場を設け、県としても積極的に取り組むべきである。

土木部長…友部駅前の歩道等の補修工事については、友部町や地元商店街のご協力を得ながら13年度に着手したい。また、友部町をはじめ周辺地域では、友部I.Cの供用により将来の街づくりを見据えて、中長期的かつ広域的な観点から将来の道路網について検討する時期にきている。このため、県と町が一体となって協議するのは有意義であると考えている。議員提案の協議調整の場の設置について、友部町の意向も踏まえながら、積極的に協力していきたい。



茨城新聞「県議会記者席から」より抜すい

―本会議一般質問―
(H12.9.9)

○…東海村臨界事故から一年を迎えようとする中、常井洋治氏(民主・清新ク)はかなりの時間を割いて県の原子力安全対策に関して質問。「県民の命を守ることを大前提の足場として考えるべき」とし、国のエネルギー政策で

―保健福祉委員会―
(H12.9.14)

○…保健福祉委員会で常井洋治氏(民主・清新ク)が相次ぐ医療上の事故やミスを取り上げ、「医療事故の報告・公表のルールが確立されていない。情報がなければ県民は(病院を)選ぶこともできない。情報報は県が頼り」と対応

とこい洋治は、元気に活動しています。



◀常井県議(中央)は、県議会議員の皆さんと県東京事務所から講師を招いて勉強会を開催。外形標準課税などについて熱心な討議がされた。(12年8月)

岩間囃子保存連合会主催の夏まつりに参加。たくさんの方の山車やみこしが集結し、駅前通りは、大勢の人でにぎわった。子供みこしの皆さんと記念撮影。常井県議は、地域の伝統文化の継承にも熱心に取り組んでいます。(12年8月)



◀友部町で、24時間テレビ「愛は地球を救う」協賛のチャリティーイベントが開催され、常井県議も参加しました。スタッフの皆さん本当にご苦労様でした。(12年8月)

友部町小原区内、一級河川涸沼前川の土砂しゅんせつと堤防補修の要望で現地調査。友部土地改良区の役員の方々と、県土木部、町職員と対応策を協議した結果、早速要望どおり実施することになった。常井県議の長靴姿も板についています。(12年8月)



ホームページ開設のお知らせ

常井洋治県議がホームページを開設しました。「県政を語ろう」のページで皆さんからのEメールをお待ちしております。インターネットに不慣れな方は、ご友人、ご家族の皆さんとぜひ開いてみてください。
アドレス●<http://www.net-ibaraki.ne.jp/tokoiv/>

燃える郷土愛。全力投球!!—21世紀型の新しい県議像を求めて—

皆様には、常日頃から、熱いご声援を賜り厚くお礼申し上げます。この度、2回目の一般質問の機会を得ました。

今回は、臨界事故から1年の時期を迎えて、何としても今後の原子力安全対策を質しておきたかったのです。友部町の住民も独自に東海村の主婦の方を講師に招いて、勉強会を開催され、私も個人の立場で参加しました。皆さんの関心の高さと熱心な意見交換に敬服しました。

事故で被害を受けるのは住民です。だから、その住民の目線で原子力行政のあり方を質していくべきです。

今回の臨界事故の原因と対応をしっかりと総括していくことが、今後の原子力行政の中で、住民の生命と健康、そして暮らしを守る基本となります。その思いを県政に反映さ

せたかったのです。

まもなく、21世紀を迎える中で、私は県議会議員として、地元西茨城郡の課題はもとより、県政全般の課題を、県民の皆さんと同じ目線で一緒に考え、解決策を議論、主張し、前向きに政策提言をする新しい県議会議員像を追求していきたいと考えております。

今後とも、絶大なるご支援をお願いいたします。



茨城県議会議員

常井洋治